

連盟ニュース

306

神奈川 7

2010.7.13

『初夏の三沢岳』場所：中央アルプス・三沢岳にて 撮影：トリコシアキオ(<http://tory.com/>)

夏山の事故防止に向けて	遭難対策部 田村 2
神奈川県連盟の組織の拡大と活動の質量ともに高めよう	県連盟会長 中山建生 3
第32期 臨時理事会及び上期(前)理事会のお知らせ	6
2010年丹沢水質調査報告	神奈川県勤労者山岳連盟自然保護委員会 7
クリーンハイク実行委員会報告 / 自然保護委員会報告	8
檜洞丸ピバーク山行(ハイキングリーダー学校養成3)6/5-6	横浜HC 永野光重 9
新日本スポーツ連盟神奈川県連盟第42回定期総会報告	代議員 会長 中山建生 10
関東ブロック役員交流会ご案内9/25-26	山梨・山の会 11
全国ハイキングリーダー学校のご案内9/18-20	日本勤労者山岳連盟事務局 11
第15回全国登山者自然保護集会のご案内	東京都勤労者山岳連盟 12
7月度常任理事会報告7/5 11p / 6月事務局長会議報告	13
<特集>【山岳会及びリーダーの役割と責任とは何か<中山私見>】	14
登山を安全に楽しく リーダー心得及び参加者心得	15
神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告と予定	17
登山時報紹介 / 県連のスケジュール / 全国会議行事予定	19



神奈川県勤労者山岳連盟
〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川1-18-2 永田ビル3階
TEL/FAX 045-434-2726 <http://www.k-rouzan.net/>
発行責任者 後藤 真一
振込先 郵便局 世界貿易センター内局 #00290-9-15228
他金融機関からは 029店 当座0015228

夏山の事故防止に向けて

遭難対策部 田村

昨年は労山内重大事故の多発で非常事態宣言が発令されたほか、トムラウシでは大量遭難事故が発生しました。年末・年始も天候の荒れ予想から大量遭難が心配されたのですが、直前に起きた富士山での死亡事故から、注意喚起、自粛が相次ぎました。そのような中でも、いくつかの死亡事故が発生しました。登山は身近で楽しいスポーツですが、常に危険とは隣り合わせであることを忘れてはいけないと思います。

さて今年の夏山ですが、標高の高い山では残雪が例年よりも多いようです。これからとける可能性もありますが、登山前に最新の情報を入手し、必要な装備・心構えで臨んでください。単独行の方は特に気をつけてください。

体調が急変し、心肺停止する事故が多発しています。山では自分が感じている以上の負担が体にかかっていることを知る必要があります。また、寝不足や過労のままで山行をしないようにしてください。

長い登山では、疲労や注意力の散漫による転倒・滑落が起こりえます。凹凸の激しい岩道、小砂利や浮石の多い道、濡れた木道、雪渓等の通過では、つまずきやスリップに十分な注意をしてください。

天候が急変し、冬の寒さになることがあります。中高年になれば誰でも体力や感覚が鈍るので、早めの対応を心がけてください。

自分の体力・技術に応じた山を選んでください。歩き出しの1時間位は、ゆっくり歩くようにすると、体への負担が少なく、その後は体が慣れて楽な登山となります。

平素からトレーニングに心がけるとともに、健康に不安のある人は必ず診察を受け、医師の指示に従いましょう。

不測の事態に備え、非常食、医薬品、携帯電話等を携行してください。

なお、最近は長期休みが分散化したり、定年後の方が増えたりしたことから、夏休み以外にも長期登山をされる方が多いようです。各会においては自分たちの会の実情にあった指導、管理を行っていただくよう、お願いいたします。

参考になるホームページ

夏山の遭難防止 新潟県警

http://www.police.pref.niigata.jp/osirase/sangaku/natsu_sounanbousi.html

富山県警察山岳情報2010夏山情報

http://police.pref.toyama.jp/cms_sec_police/6112/kj00009521-001-01.html

神奈川県連盟の組織の拡大と活動の質量ともに高めよう

2010.6.25 県連盟会長 中山 建生

私たちが求めた山岳会活動の原点は仲間とともに登山を楽しみ、生きることの喜びを共感することにあります。つまり登山の楽しさややすばらしさを多くの人たちに伝えて仲間に加わってもらうことです。近年、登山者の数は減って、山岳会に入る人たちは一層少ないと知らされています。私たちは登山を単なる個人の山登りとするのではなく、今を生きる自らの励ましと仲間との切磋琢磨する豊かな関係からよりよい社会を創りたいとするものです。

登山が社会とともに前進してゆくためには、私たちが時代を先取りして、多くの仲間の協力と連帯が必要です。一人では為せないことが仲間の団結により、知恵と力を結集して物事に臨むことができればきるからです。さて私の提案は以下の内容です。

連盟活動の基本に仲間を増やす = 会員拡大を

山岳団体、会の役割はなにか = 自覚と行動の指針を

山岳会活動の楽しさを求めて = 組織の規律と集団の力

私たちの回りにいる登山者に声をかけよう

無為に過ごすことから一步を踏み出そう

連盟活動の基本に仲間を増やす = 会員拡大を進める。いま私たちが仲間を増やすことに躊躇したり、足踏みしている原因は自らにあります。一つは自分の要求だけで、他人に目が行かないからです。その原因はと問われれば正に今日の社会の矛盾に突き当たります。しかし、根源的な矛盾の解決がなされなければなにもできない、しないということにはなりません。少し回りを見てみましょう。毎日を元気に、仲間を励まして山登りをしている人がいます。「いいな」と思うならぜひその人の生き方を真似てみましょう。

仲間を増やすことに賛成であっても、次に来る「だれが面倒を見るのか」という問題で尻込みする人がいます。せっかく自分の好きな山登りができると思っていたのに、会から新人の面倒を見てくれといわれて困ったというものです。しかも会の古い人たちはだれも協力しないという現実嫌気がさしたともあります。これは会が仲間を大切にしようという気持ちを欠いたまま、個人に責任をかぶせて知らん顔をしていま

す。組織としての規律に欠けています。この問題にぶづかった時は曖昧にせず答えを出さなくてはなりません。一人で山登りをするなら、とりわけ仲間を求めることはないのです。なぜ仲間を求めるのかよく考えてみましょう。一緒にいて楽しい。仲間と一緒にゆえに感動した。人間を信頼できた。お互いに胸襟を開いたなどと語ってくれました。人それぞれに価値観や生き方の違いはあります。そうしたことをお互いに理解して目標を持ち生きるとはとてもいいことです。

山岳団体、会の役割はなにか = 自覚と行動の指針を持とう。どんなに小さくても会として成り立つのは一つの集団としての機能をもつからです。始めは顔見知りの仲良しからとしても、だんだんと知らない人が加わり、組織として整備されていきます。時には意見が違い、ぶつかることもあります。こうしたことは当然に起きることです。私たちは組織として名を挙げた瞬間から社会的な存在となります。良くも悪くも会のさんとなります。そして〇〇会の活動が問われます。さて山岳会とは会員に登山の知識と技術を学ばせる、集団的な規律やモラルを身につけて、山登りをしたいとする人たちの範になります。だから登山者としての自覚が求められ、いいかげんなことや勝手な振る舞いをしてはならないのです。だれもが直ぐに優れた登山者、あるいは指導者になるわけではありません。しかし、私たちの目指した山岳会や登山の将来について「勤労者山岳連盟の理想」があります。この目標に向かっての努力はだれもができます。登山の普及、遭難事故の防止、山岳会活動の充実、自然保護と保全活動への取り組み、平和でこそ登山の実現、海外登山と国際交流、生涯スポーツとしての登山など、たくさん課題や目標を仲間とともに実現しようとしたのです。神奈川では大きな事故の反省からリーダー養成学校の取り組みを強化、会活動の改善、連盟のはたす役割、機関誌活動の強化に力を入れてきました。しかし、肝心の山岳会の社会的な役割についてはずっと後退してしまいました。その理由は 述べたとおりです。

山岳会活動の楽しさを求めて = 組織の規律と集団の力を貯えよう。全国連盟が2001年に提案した個人会員制度の問題とも関わりま

す。これは今の若い人たちが組織離れをしているとの認識から、山岳会の規律や決まりを緩やかにして会員の獲得をしようという目論みです。何故に組織を嫌い、自由分散的な、その時々々の要求に従うのかは、それを求める人たちにも明確な基準はありません。小さな頃から組織に縛られ、自らの要求や意欲を充足させる環境ではなく、大人の言うことを素直に聞く、反抗心のない人間像を強制されるから、これに反発をするのです。また既成の権威を否定する風潮があります。世の中に信頼に足る組織はないという不信の気持ちは家庭や社会のなかでいやというほど見せ付けられ、否定をするごとで自分の存在価値を確かめようとしします。しかし、これは私たちが物事の本質を見付けられないようにするための思想的な攻撃に負けている結果だと思えます。山岳会が活発に、しかも会員の要求を実現しているときは会員の目が内向きであっても矛盾は拡大されず、組織活動も破綻はしないでしょう。だれもが経験していることに、いつでも楽しさがある、喜びを感じられることはないのです。辛いことに、厳しい事態に直面したとき自分が、仲間が前を向いて活動に取り組めるかどうかです。山岳会が日常的に優れた活動をしているか、いないかで会員の集中力は決まります。組織の運営に関しては自由分散的な気分や主張にたいしてはきちっとした態度で臨まなくてはなりません。こうした経験を積むにしたがって所謂仲良しクラブから真に協力で連帯を柱とした人間的な組織へと脱皮していきます。

私たちの回りにいる登山者に一声をかけようという組織人であれば当たり前のごとが出来ないのでしょうか。 から で述べたような環境から私たちが脱出できないからです。このことで特に深刻な思いをしているのは会の役員の人たちであると思えます。

この問題に関しては県連盟として拡大に関する方針を立てられずに先送りしたことを反省しています。本来組織が責任をもって取り組むべき課題を担当者任せにしたことです。全体で気運があがらず、各会の皆さんの意欲をかきたてる働き掛けを失いました。県連盟規約には組織の強化と拡大を担当する部を設置するとありながら、従前からの事務局長の不在とともに責任を果たせなかったことを申し訳なく思います。県連盟として現在の組織の質的な向上、特に規律の向上をはかりたいと考えています。このことは遭難事故の防止につながる事故、軽々しく扱えない問題です。会のレベルにすれば学習

意欲を高め、訓練をし、普段の山行の中身を高めることになります。これは同時に会員同士とのつながりと信頼を高めることにもなり、新鮮な気持ちをもって山行活動に取り組むことになります。全国的な事故の多発は偶然のことではなく、会の日常的な活動、とりわけ安全教育が疎かにされ、日々の登山活動そのものが目的意識的な取り組みでなくなったことにあります。皆さんの周囲がこうした環境になれば、普通のことをしているとして、計画書内容の点検や準備、体調管理、役割分担、目的と方法、山行管理と指導、次の目標などがいつのまにか放り出され、慣れの中に浸る漫然とした活動から逃げられなくなります。計画書そのものが面倒だ、打ち合せも省こう、目標や点検はなしにしよう、下調べや情報入手も疎かにして、山行そのものが個人の楽しみだけとなり、会全体の意欲や質を高める方向には向かないのです。こうなると新しい仲間を迎え入れてとはなりにくいことは誰もが承知しています。私の指摘が正しければまずこの環境を打破することです。

無為に過ごすことから一步を踏みだそうと呼び掛けるのは以上の理由からです。

何もしないで自分の世界に閉じこもろうとするなら、勤労者山岳連盟の求めるものとは違えます。皆さんが自分の為だけを考える山岳団体を真剣に求めるなら現在の県連盟の考え方や組織を変えなくてはなりません。皆さんが表と本音を使い分けるのは正しい態度ではないからです。

組織は時代とともに変わります。それは皆さんの要求と置かれている環境からも不変ということにはなりません。どう変えるのかは皆さんが決めることです。決めたら実行することです。この時、面倒なことはしたくないという気持ちから、組織の質を下げるならそれも一つの選択なのです。結果、事故が起きたらその責任は取らなくてはなりません。決めたことに対して発生する結果に対して、これを知らないというのは適用しないからです。そんなことなら組織を解散して各自が自らの責任で山登りをするを勧めます。山岳会として社会的に名を示す以上、責任を持った行動と役割を果たさなくてはなりません。しかし、今日では肝心なことがたためになっています。無責任と無関心が蔓延しているのです。いざ自分の問題になって初めて気付くというのでは遅いのです。ここは皆さんが踏ん張りどころです。会の存在は皆さんを励まし、生きがいを支えたからです。

この9月には臨時の理事会が開かれます。

県連盟の規約と規定を見直し、現在の、そして将来の県連盟の活動を生き生きとして行なえるようにしたいと願うからです。

また新たに組織の拡大と質的な向上がはかれるようにいくつか提案をしたいと考えています。

県連盟は皆さんが山登りをするために存在する組織ですが、同時に神奈川県民に開かれた組織でもあります。開かれたというのは誰もが山登りをしたいと欲するときに役に立つという意味と仲間に加わって一緒に日本の登山をより良いものにしようという行動をとるものことです。ここで私たちが求めるのは単なる山登りの仲良しクラブとは違うのです。この時代を切り開く志を持ち、山登りの楽しさと会活動の充実をはかりましょう。

日本勤労者山岳連盟趣意書とは

全国連盟(略称)創立50周年「労山のあゆみ」から

1963年日本勤労者山岳連盟が結成されました。その当時の登山者に労山(略称)の考え方を示したものです。以下概要をまとめてみました。

1. 権利として登山

当時の社会的状況から、登山の担い手は勤労者であること。したがって勤労者が登山活動に臨めるためには経済的条件の改善、労働時間の短縮、有給休暇の獲得が必要であること。また登山に必要な知識と技術を学ぶ場が必要であること=制度的な要求の実現。

そのためには勤労者が自主的な活動を為せること、つまり押しつけられたり、既存の価値を盲目的に鵜呑みにする事無く、自らの意志と要求で登山を行なうこととした。これはすべての国民は「人間らしく成長し、人間らしく生きる権利」を持つているので国や県はその権利を保障し、実現する責任があるとうたいあげた。

権利としての登山については神奈川における私のまとめを参照されたい。

2. 登山の多様な発展

日本の自然は四季折々、多面的で豊かであることから、自然の親しみ方は多様である。つまり、国民が求める登山は登攀に限定されず、ハイキングから海外登山、国内においては冬山と求める者の能力により多様であって良いとする。だから一時ではなく生涯スポーツとしての登山を位置付けて将来を展望した。

3 海外登山の普及

この当時はだれもが行きたいと臨んでも実現しなかった。外貨の割り当て、ビザの発給目的など実現に大きな障害があり、これらを克服し切れていない。また登山目的だけで国際的な交流と親睦を積極的にはかると意識も薄かった。対象となるネパール、チベット、中国、ソビエトなどとの交流を望まない人たちもいた。さらには国際的な紛争や戦争により、自由な交流の障害ともなった。こうした現実を目を向け、友好親善、平和を願う登山者の増加と行動が海外登山の前進につながるとして普及を訴えた。

4. 遭難事故の防止

生命の大切さはなにものにも変えがたい。登山を望む人たちが山岳会に入る事無く、つまり学習と訓練の機会を得ることがないために事故を防げない。そのために山岳会が登山者の事故防止の為の教育活動に取り組むことを社会的な役割であるとした。

こめ登山者への教育の機会は山岳会だけでなく、国や県が積極的に援助、支援しなくてはならないと訴えた。遭難救助の取り組みの強化、山岳団体の連帯への働き掛けなど事故後の問題にも改善を訴えた。事故の背景には当時の退廃的、刹那的な人生観を否定して、人間の命を大切に作る=仲間を大切に作る考え方と行動を実現せよと結んだ。

5. 自然を守る

大規模開発や林道建設など神奈川でも自然の破壊が進んだ。山岳自然に例外ではなく、過疎対策、観光開発などの名目で自然の破壊が進んだことから、登山者のフィールドである山岳地の保全と保護を自らの課題として、今日のクリーンハイクや清掃登山の実現に貢献した。

当時の政治、経済、社会、文化など、登山者と関わる問題は多くの矛盾と問題を抱えていたことが分かる。今でも山岳自然の保護と保全は進んでいない。いったん開発してしまえば後は放置され土砂崩れや洪水、震災などの影響からより大きな被害を生んでいる。登山者の意識や要求も変化して、働くもの達が職場を失い、生活そのものが成り立たない事態を迎えた。こうした環境は登山者等に深刻な問題を抱えさせた。当時の趣意書は全国の仲間達により、より具体的で実践的な運動の指針として、各地で工夫と創意がこめられ新しい理念として根付いている。神奈川の規約前文、呼び掛けの文書もこうした考え方と実

践から作られた。

反対にこうした環境の悪化は登山者の意欲を削ぎ、山岳会活動の低下をも招いた。会員に対しての教育の取り組みの不足、事故の増加、規律の乱れ、社会的な課題への無関心、仲間とともに歩む連帯の気持ちの薄れ、つまり、私たちはこれまでの成果と教訓を次に伝える役割を果

たしていない一面をも生み出した。会のレベルでの問題意識も変わった。新しい会見に過去の教訓が伝えられていない。さらには将来の展望を語る力を失っている。今日明日をどうするのかに追われているか、考えないかのいずれかである。これに反旗を翻してほしいと望むのは私だけではない。

理事 各位

2010年度「臨時理事会」開催のお知らせ(再掲)

理事長 後藤 真一

初夏の風がさわやかに感じられる頃となりましたが、皆様におかれましてはいっそうご健勝のお慶び申し上げます。

さて、下記のように臨時理事会を開催致しますので、万障繰り合わせの上ご参集をお願い致します。

現在の規約は現状に合わないところがあります。特に規約の第3条は今の時代にそぐわない。第6条は削除したい……等。文草的にもおかしな所が多いと考えています。9/12の定例理事会だけでは時間が足りないと考え、臨時理事会を開催致します。

記

日時：2010年8月31日(火)
19時00分～21時00分
会場：かながわ労働プラザ・第4会議室
(横浜市中区寿町1丁目4)
TEL 045-633-5413
※ 石川町駅(北口)下車徒歩3分
議題：規約改正



理事 各位

2010年度「定例理事会」開催のお知らせ

理事長 後藤 真一

盛夏の候、皆様におかれましてはいっそうご健勝のお慶び申し上げます。

さて、下記のように定例理事会を、臨時理事会に引き続き開催致しますので、宜しくお願い致します。

記

日時：2010年9月12日(日)
13時00分～17時00分
会場：帆船日本丸「訓練センター」
(横浜西区みなとみらい2-1-1)
※ 桜木町駅 下車徒歩3分
議題：規約改正・上期の活動報告・
個人会員制度について検討



2010年丹沢水質調査報告

神奈川県勤労者山岳連盟自然保護委員会

5月29日(土)に実施しました丹沢水質調査は、曇り夕方からときどき小雨の天候でしたが、無事に終わることができました。ご協力いただいた会の皆様、有難うございました。

今回は、若干の沢のデータがうまくとれませんでした。湧水はどれも陰性で大腸菌は検出されませんでした。また、今回も大腸菌のほかにイオン(NO₃⁻、NO₂⁻、NH₄⁺、Ca²⁺、Mg²⁺、Al³⁺、Fe、Cl⁻)濃度やCOD、pH、濁度、色度なども調べてみました。ほとんどのものは基準値以下でしたが、昨年と同様に、色度の高い試料があったので色度も表に載せました。特に、一の沢ツメは昨年(11.5)よりも上がっています。水道水の場合は、一応水質基準が色度5度以下となっています。これから梅雨に入ると、動物の糞尿も含め、いろいろな有機物が沢に流れ込むことも予想さ

れますので注意が必要です。

さて、来年は神奈川県が丹沢の水質調査をはじめて20年になります。この間、大腸菌などの検出技術はめざましく進歩してきました。おかげさまで、分析の精度は良くなりましたが、沢の水質が徐々に悪化している現状が明らかになってきています。しかし、この大切な丹沢を守るために、自分たちができることをしていきたいという皆様のお気持ちに支えられて、この調査がここまで続けられてきたと思います。今年には特に、水温の測定やら、イオン調査用の採水やら、めんどくさいことをお願いしましたが、気持ちよく引き受けていただき、ありがとうございました。

来年の水質調査にもぜひ、ご協力を宜しくお願いいたします。

場所	大腸菌	色度	場所	大腸菌	色度
水無本谷(出合い)	陰性	1.0	一の沢(ツメ)	陽性	13.5
水無本谷(ツメ)	陰性	0.0	一の沢(取水口)	陽性	5.5
源次郎(出合い)	-	1.5	見晴茶屋	陽性	-
源次郎(ツメ)	-	0.0	見晴水場(東南斜面)	陰性	-
勤七の沢(出合い)	陽性	1.0	大倉高原山の家	陰性	5.5
勤七の沢(ツメ)	-	-	塔ノ岳(流水)	陰性	0.0
後沢乗越の水場	陰性	0.0	大山春岳沢の水場	陰性	0.0
葛葉の泉	陰性	0.0	ゴマ屋敷水場	陰性	0.0
竜神の泉	陰性	0.0			

計量の対象「大腸菌/100ml」
 (財)新日本検定協会(-検査なし)
 色度(度):デジタル濁色度計(共立)
 理社MPT-409 測定温度:20~21

丹沢山域水質調査結果(過去19年間の推移)

地図	A	B	C	D	I	J			K	P	E	F	L	M	N	O	
採水場所 年月日	水無本谷出合	水無本谷ツメ	源次郎沢出合	源次郎沢ツメ	勤七の沢出合	勤七の沢ツメ	一の沢取水口	一の沢ツメ	見晴水場	大倉高原山の家	後沢乗越水場	竜神の泉・湧水	竜神の泉・流水	塔ノ岳水場	葛葉の泉	春岳沢水場	ゴマ屋敷水場
2010/5/29			-	-	-	-						-					
2009/7/12	-	-	-	-	-	-	-	-							-		
2009/5/30												-					
2008/5/24							-	-				-					
07/5/26							-	-				-					
06/5/27							-	-				-					
05/5/28				-			-	-				-					
04/5/29	2	1	9	1	5		戸沢出合	戸沢ツメ	-	1	1	-		5	1		
03/5/24	9	2	1	1	2	4			-	3		-					1
02/5/25									-			-					
01/5/26									-			-					
00/5/27									-			-					
99/5/29									-			-					
98/5/30									-			-					
97/5/24									-			-					
96/06					-	-			-			-					
95/6/04									-			-					
94/6/05									-			-					
93/6/13	-	-		-					-			-					
92/6/14	-	-		-					-			-					
91/6/09	-	-		-					-			-					

6月28日自然保護委員会ミーティング議事録

参加者：渡辺さん、磯辺さん、大用さん、高橋さん、萩原さん、関根さん、伊藤さん、永井
場所：労山事務所

議題：丹沢クリーンハイクの反省と来年への抱負
(前回の反省会で出した問題点を見直す)

Q：実行委員はどこまで決定するか？

今年のように雨天一般参加者中止の場合、会員は任意で林道のみになるが、来年度から、雨天時でも登山道整備や他コースを設けようということになった。

Q：天気を決める基準はどうするか？

日本気象会とNHKラジオを参照する。

Q：雨天時の一般参加者の判断基準をどうするか？

色々な問題を想定し、今まで通り50%以上の降水確率で中止する。また自己責任で参加するという文面をちらしにつけ加える。

Q：一般参加者の保険については？

100円で障害保険をかけているが、参加費は無料な為複雑になるので明記していない。万が一事故が起こった場合の対処が不明瞭なので、方法や事例を他の県連や全国理事会にWさんがヒアリングする。

その他：

ゴミが多い登山道以外のロープを使った清掃など、今回あげられたが、具体的な事柄について来年話し合う。

今後の予定：

- 7月 CH報告の校正
- 8月・9月 CH報告書の配布、県に水質調査とCH報告書を持って一ノ沢の整備について相談
- 10月 10/3-不動尻コースCHを川崎ハイクと自然保護局委員会共催で実施
- 11月 11/13, 14-天城山で観察会, 11/27, 28-全国自然保護集会(青梅市)
- 12月 アイデア募集
- 1月 アイデア募集
- 2月~ 2011年の丹沢CH準備
- 3月 広沢寺CH

以上。(記録：永井)

第7回クリーンハイク実行委員会報告

日時 2010.6.7(月)19時~21時

出席者 伊藤、関根(横浜HC)、黒井(雪童)、永井(カモの会)、千葉(みずなら)、吉崎(柴笛)、渡辺

(相模AC)、大用(川崎)、磯辺(地平線)、森谷(小田原ナーゲル) 三上(こぶし)、早坂(山ブキ)、高橋、萩原(藤沢)

5月30日(日)クリーンハイクが雨天のため、林道清掃のみ実施。

不動尻のコースは自然保護委員会で計画して実施する。

水質調査、前夜祭、クリーンハイクの感想、反省水質調査

塔から水場までの道が荒れていた。本谷-小雨の中寒かった。来年は他のところをやりたい。水質調査の内容が実際採水を行う人に上手く伝わらなかった。やってみると面白いので、色々な会に体験してほしい。水質のことが広がって発表できると良い。丹沢の水場の関心が強いので報告ができと思う。来年は実際に採水を行う人に直接容器を説明をしながら渡したい。

前夜祭

楽しかった。他の会との交流ができた。来年はもっと沢山参加してほしい。歌声のリードがあったのでまとまってきた。翌日雨のため消灯時間が延びたので充分満足できた。

クリーンハイク

横浜HC 会山行として6名堀山まで行った。朝できそうだったので来てみた。安全なコースも用意したほうが良いかなと思った。個人に任せたが会としてまとめたい。(以前は全員参加だった)

一般参加者の連絡が不十分だった
天気予報を見ていたけれどよくわからなくて、会の連絡が遅くなってしまった。
戸沢の無線の人がわからなかった
無線のコールが届かなかった。

会ごとにゴミを諮るのはなぜか・・・意味があるのか
コース毎のゴミの量がわかるため
最初から不燃物と可燃物を分けておくべきだった。
林道からはずれたところのゴミが目につく。
来年は安全を確保して林道下のゴミを拾いたい。
蛭がいやで来る人が少ない。

秋にならないのか

実行委員を初めてやってみて楽しかった
計画書の出し方-当日出してもらったほうが本部としてはスムーズにできるのではないかと
受付の役割分担を決めておいたほうが良い。
あいた時間を有効に使いたい。

実行委員会は解散しますが、自然保護委員会で引き続き話し合ってください

檜洞丸ビバーク山行（ハイキングリーダー学校養成3）2010/6/5～6

今回は曇り空でのビバーク山行でした。檜洞丸は2回目の山であり、ゴーラ沢出会からの急登へのペース配分と、山頂より犬越までの鎖場への対応として、鷹取山で習ったことを実践することを心掛けて歩くことを目標としました。

つつじ新道の木橋を慎重に渡り、前日の雨ですべりやすい道を丁寧に歩き、ゴーラ沢出会まで快適な道をメンバーと話も弾み楽しく歩くことができました。沢で少し休憩をとり、雨が降らないことを祈りながら登攀開始です。ここから本格的な登山道、女性陣を前にゆっくりと登ります。歩行中障害になる、枝、浮石、足場不良を講師の指示の中、鎖場も鷹取山で培った技術で安全にクリアします。ここから約2時間のコースを途中休憩しながら登って行くと、山ツツジと東国ミツバツツジが我々迎えてくれます。鮮やかな薄紅色、杜若色、緋色に感激しながら展望園地につきましたが、あいにくの天候で富士山を見ることはできませんでした。

山頂に近づき、木道にはいるとシロヤシオが満開でした。ここまでの登り中、かなり疲労困憊のメンバーもいましたが、その素晴らしい景観に再度感激しながら元気を取り戻し登ってゆきます。

ブナ、バイケイソウの群生する木道を楽しみながら頂上へ着き昼食となりました。

頂上は、あいにくガスの中で眺望もあまり楽しむことができません。気温も低いので早々に犬越避難小屋へ出発です。これから鎖場、梯子、滑りやすい木道と危険な箇所が多い為、気を引締めて降りてゆきます。鎖場では、鎖に頼らず三点確保で降りること、木階段は滑りやすい為に踏まぬこと等、細部にわたり講師陣よりアドバイスをいただき無事避難小屋へ着くことができました。

犬越避難小屋は、新しくトイレもある快適な施設です。到着後すぐに就寝と食事の準備その後、みんなで楽しくテーブルを囲んで夕食ですが、明日の天気と筋肉痛が気になりま

す。

二日目、天気は回復していませんが、体調不良を訴える方もなく予定より10分ほど早く出発し大室山を目指します。視界不良の中、コンパスをあわせ昨夜の雨ですべりやすくなった登山道を慎重に登ってゆきます。途中地図とピークの確認を行いながら、行程90分ほどで大室山頂に到着、天気も少し回復し青空も見え山花を楽しみながら次の目標である加入道山を目指します。加入道山までは、急な下りといくつかのピークを越えて行きます。ここで休憩し最後の分岐点にてコンパス確認し下山を開始します。この道は、途中湧き水が集まり滝となり溪流を形成する部分に沿って歩く道であり、躓き、転倒、滑落に注意しながら降りてゆきました。

13:00頃西丹沢自然教室に到着これよりぶなの湯で汗を流し新松田で反省会となりましたが、

今回、下り道は本当に怖いと実感しました。ただへっぴり腰で歩くのは更に滑りやすくなるため、歩行技術の習得が必要であることと、必要最小限の装備の選択と軽量化が必要である痛感しました。

今回、充実した山行を指導していただいたコーチ陣及び17期生に感謝いたします。

横浜ハイキングクラブ 永野光重



新日本スポーツ連盟神奈川県連盟第42回定期総会

2010.6.5 神奈川県勤労者山岳連盟 代議員 会長 中山 建生

本年6月5日(土)午後1時より5時まで川崎市教育文化会館にて表記の総会が開催された。神奈川県勤労者山岳連盟の代議員として中山と池上準子が出席して、総会の活動報告に加えて登山者の事故に関する損害賠償についての関心事について中山が報告した。別紙のとおり。

出席代議員38名、委任状2通で総会は成立、41期の活動報告と決算を承認し、42期の方針と予算案について出席代議員の賛成多数で可決した。なお磯部津輝子はスポ連の常任理事に就任したので合わせ報告します。

スポーツ連盟の基本的な呼び掛けは 県民のスポーツ要求に応じて多様で魅力あるスポーツ活動をする。総合的スポーツ組織をつよく大きくする。自主的な活動を広げ、フェアプレー、スポーツマンシップを育む。地域に根ざしたスポーツ文化を創造する。フェアプレーでスポーツ文化の花を咲かせよう!(第28回スポーツ祭典)と冒頭にこの考え方の大切さを強調しました。

石川理事長からスポーツを巡る一般的な状況は社会的な貧困による格差、収入の減少と労働条件の悪化はスポーツを行なう場合にかかる費用、時間の確保などが困難となりスポーツを実行できないような事態に追い込まれていると報告され、続いて吉成事務局長から、各種目から活動報告がなされた。労山の活動は教育活動による成果、クリーンハイク、遭難事故の防止に継続的な取り組みをしている報告されました。私のほうからは組織の拡大に関して全国からの提案となった個人会員制度の検討と山岳事故を巡る責任について登山者の認識と社会的な認識とのずれについて、事

故に対して責任を持つという自覚の弱さなど、仲間を大切にするという意識も希薄となっていることを遭難事故事例から口頭での発言をしました。

各種目から積極的な拡大に成果をあげた教訓、連盟を支援する財政措置、また会員が増えない悩みなどをそれぞれに報告しました。各報告を受け、石川理事長のまとめをなして、総会議案の承認、新年度の方針と予算についての採択を終了して、新理事の選出となりました。磯部津輝子はスポ連の理事に選出され、第1回の理事会で常任理事に推挙されました。

総会の議案、方針、決算、予算案についての資料は分かりやすく、広島、長崎の市長からの平和活動についての連帯のメッセージ、東京他の地方連盟から届いたメッセージも一部紹介されました。他のスポーツ活動と組織運営の工夫や悩みなどは直接話を聞く機会を久しぶりに持ちました。総会開始に当たり、はたの君枝(共産党参議院候補)氏がスポーツと政治の問題を、全国の永井氏が教育学者の城丸章夫先生が「体育・スポーツは権利である」と提起し、後のスポーツ連盟誕生の大きな力になったと話をしました。その年の6月に横浜の三ツ沢競技場で第1回全国青年スポーツ祭典が開かれたのです。私は当時高校3年でこの競技場での様子を見ていました。なにか裏方仕事をしていたように思います。時代の流れとともにスポーツ要求のうねりは卓球とウォーキングで現れています。全体に健康要求が背景にあり、登山一筋にとり時代からますます楽しみや豊かさの付加価値を求めようになると感じて帰りました。



季節の花

300より

第15回全国登山者自然保護集会のご案内

主催 日本勤労者山岳連盟 主管 東京都勤労者山岳連盟

記念講演 = 小川 潔氏 (東京学芸大学教育学部准教授)
・講演テーマ「生物多様性の保全と登山者の役割について」

日程 = 2010年11月27(土)13時~28日(日)12時

【第2日目】11月28日(日)

場所 = プリヂストン奥多摩園

・受付開始(8時30分)

〒198-0171 東京都青梅市二俣尾1-264

・分科会(9時00分~11時00分)

交通 = JR青梅線「石神前」駅下車2分

オプションツアー

資料代 = 500円(夜の交流会参加者は別に1500円)

宿泊希望者は8000円(資料代、一泊二食付き・交流会費用含む)が必要です。

申し込み先・問合せ先 = 東京都勤労者山岳連盟(主管)

メール又はFAXにて申し込んでください。極力、都道府県又は会単位でお願いします。

締切期限は、11月13日(金)です。

E-Mail info@twaf.jp TEL/FAX 03-3260-0372

連絡先: 都連盟自然保護委員会

理事(渉外担当) 林祥介 080-2006-2073

理事(事務局予算担当) 加木屋守秀 080-1208-4399

7月度常任理事会報告7/5

部会報告

1. 自然保護委員会(大用委員長)

クリーンハイク反省会を6/7に実施。内容は7月県連ニュースに掲載する。

6/28の自然保護委員会で課題になったのは雨天対応。来年は一般参加者は従来どおり中止だが、会員の雨天時コースを広げたい。

チラシでは雨天中止の基準は降水確率50%としているが、どこの基準(気象協会等)かや、参加は自己責任ということを明記する。

また、一般参加の方に対する保険をもう少し明確にしたい。

10/3に、不動尻コースのクリーンハイクを川崎HCと共催で行いたい。

2. ハイキング委員会(増田委員長)

ハイキングリーダー学校机上6/17「気象」。7/15机上予定「夏山に向けて」。

8/8沢登り実技予定、葛葉川本谷。

3. 救助隊(海輪隊長)

6/15運営会で沢搬出訓練打ち合わせ。6/27訓練地下見。戸沢左俣で行う。

搬出訓練はカモの会が中心で内容検討。7/3モミソ岩で技術訓練。引き上げ、

引き下ろし、斜張。7/3は18名、7/4は16名。左俣大滝を登攀中に滑落した

事故のイメージで実施。その下の2つの滝は斜張。スケッドには井藤さん入る。

反省点としては、張り込みのロープの張力をどのくらいにするか、搬送者は

やはり必要。浅原氏(カモ)が進行役。

お盆休みの救助体制は8/7~15とする予定。

4. 遭対部(田村部長)

10/17(日)高津氏講師でFA講習予定。会場未定。

みずならから無線機机上講習の希望があり、7月中に行う予定。会場は県連事務所。藤沢山の会からも講習の希望が来ている。

5. 教育部(後藤部長)

リーダー学校6月は読図。講師が教えるという方法ではなく、中級(2年目)を

CLとして受講者全員が参画する意識で臨んだ。

7月は沢登り。7/11実技は源次郎沢、セドノ沢左俣、セドノ沢右俣と分ける。

沢のロープワークはクライミングと違いまだ醸成されていない部分が多い。

クライミング要素を取り入れた沢のロープワークを紹介したい。

受講生による自主登山において落石を起こし、ハイカーが怪我をする事故が発生。落石をおこしたこと自体が良くないが、岩場に侵入してきたハイカーの意識にも問題あり。

6. 事務局(池上)

下期理事会の日程は9/12(日)。規約はメール(PDF)と郵送で送付済み。

8月事務局長会議は増田常任理事が担当。

中山県連会長が警告する登山の法的責任(刑事責任、民事責任、賠償)の問題は難しい。

7. 財政(蝦名)

白嶺岳和会の清算。今後は解散予定の会がもしあったら早めに清算をしてもらう。

8. 機関誌(三上)

県連ニュースの内容について。

中山会長の「神奈川連盟の組織の拡大と活動の質を高めよう」を掲載。

9. 組織拡大について (田村副理事長)

常任理事会と組織的に活動することは、今は運営だけで手一杯なので無理。各会、各会員のレベルで、一般登山者への声かけをするなどして、会員数を増やす努力をして欲しい。

会に入るメリットに関しても、もう一度洗いなおす必要あり。

事務局長会議にて、議論してもらおう。

10. 規約改正について

まず、たたき台を作る必要がある。

8月2日の常任理事会までに、各常任理事はまず自身の関連部会に関わる規約の改正案を理事ML宛にワードファイルで流す。

ワードやメール環境に疎い方はメッセージプラス050-3488-3765にFAXすること。

現規約のワード化は田村副理事長が8月常任理事会までに起こす。

中山会長案は、後藤理事長がわかりやすく整理する。

11. 臨時理事会と定例理事会の進め方に関して

臨時理事会の司会は後藤理事長。

2時間しかないので、常任理事会にて規約の改正案をあらかじめまとめておき、その説明と討議を行う。

定例理事会の内容は、規約改正案の採否と、上期の活動報告、個人会員制度案に対する検討と意見集約とする

次回常任理事会は、8月2日(月)・19:30から

(記録:後藤)

6月 事務局長会議 議事録

2010年6月8日(火) 7:20開始、

記録:池上事務局長

出席者:小池(川崎労山)・池村(川崎HC)・砂原(柴笛)・山本(AC横浜)・丸尾(横浜HC)・中河原(藤沢)・中島(ナゲル)・蝦名(相模AC)・末吉(みずなら)・横田(雪童)・栗田(やま++)・青柳(山ブキ)

理事等:中山(会長)・蝦名(財政)・三上(機関誌)・池上(事務局次長)・西川(事務局部員/記録)

【1】県連からの事項(連盟ニュース6月号参照)

5月30日(日) 第33回クリーンハイクは、雨の為一部実施(3ページ参照)。

臨時理事会を8月30日(月)に開催しますので、ご承知おき下さい。(5ページ参照)

連盟ニュースを、「メール配信」と「持ち帰り部数」の確認をお願いします。

【2】各会からの報告(怪我・トラブル等報告)

(連盟ニュース6月号参照)

川崎柴笛クラブの砂原ですが、僕は「甲府幕山」にクライミングに行った時に、ボルトの取り替え作業をしている人(フリークライミング協会?)がいました。1カ所ボルトが折れて落下して骨折した人がいたそうです。普通のアンカーボルトからケミカルハンガー(接着剤でとめる)と言うのに変えた。他のルートも全面的に変えていく様です。菊地利幸さん(ガイド)によると、甲府幕山は、「凝灰岩(ぎょうかいがん)」と言う柔らかい岩なので、ケミカルハンガーは、凝灰岩ごと剥がれてしまうので、普通のボルトの方が良いのではと言う事でした。どうなんでしょうか。

(中山)そう言う所は軟鉄のボルトが良いと思いますが。

横浜HCでは、26山行中3件の事故(県連ニュース参照)があり、小さい事故とはいえ、もう一度検討、対策を考えていきたい。

小田原ナーゲル山の会では、リーダー学校の中級の方が教育担当になりレベルアップを図り、毎月山行実践、例会時に40分講習(山行計画、共同装備等)を遣っています。

今迄リーダー学校に入学するに当たり会から1割補助をしている。今年からは、内容の報告、会の行事の時にリーダーか、サブをやる事を義務づける様にしたいと、話し合ってる。

例会時の時間短縮、時間厳守(7時30分~9時00分)。

みずなら山の会は、岩トレ・沢が盛んに実施されている。6月6日(日)福島と新潟の県境に上山したのですが、雪が多く撤退しました。

雪童山の会では、クリーンハイクの水質検査で水無川に。蛭が沢山いました。4ヶ所も食われました。

やま++では、鷹取山でトンビに「どら焼き」を取られました、ご用心。

山ブキの会 チョモランマに登ってきました。登りは大変でしたが花が多く目を楽しませてくれました。風土が日本と同じでした。

【3】その他

小田原ナーゲル山の会からの提案:「遭難対策積立金」について各会の状況を教えて下さい。

ナーゲル山の会では毎月一人50円積み立てをして来て、現在150万円になり早急に具体化することを決めました。内容は現地に向かう交通費、車代、宿泊費、通信費、協力してくれた人達への同様の経費、お世話になった方々へのお礼...等を考えていますが、新しく作っていきたくと思っています。

- ・ みずなら山の会では、まだ積立金が少ないので入会時に 5,000円を預かり、退会時に返す。
- ・ 初動捜査の時は、現在では現金で80万～100万必要（お正月は下せない事が有り注意）
- ・ ヘリコプターは、要請してから2時間はかかる。約80万円（これは後でも支払い可）
- ・ 捜索隊の日当は、1名3万円以上 現金
- ・ 事故の経費は、遭対基金から支払われるから遭対積立が無くなるわけではない（9割位）
今後はメールで、各会と色々なご意見や状況について意見交換をさせて戴きたいと思えます。
有り難うございました。

<特集>

【山岳会及びリーダーの役割と責任とは何か<中山私見>】

中山 建生 会長

皆さんは登山を計画し、メンバーとの打ち合せを済ませ、会と関係者に計画書を提出した後に登山を実行しています。しかるに最近では計画書の作成、打ち合せ、点検が疎かにされ、登山者として自覚と責任を欠いていると言われます。会として指導が全うされないという現実が遭難事故の背景にあるとも言われます。このように指摘される理由は登山計画書を担当者が作成して、例会の後に集合時間と場所、車の手配を確認する程度で、メンバー全員が登山の目標や中身を検討していないからです。山行管理者も受理するだけで点検指導まではしていないと言います。過去に、装備の点検や目的にあったものを用意する事無くでかけて、現地の行動もばらばらで会員が滝から落ちて死亡するという事故がありました。後にこの会は山行規定を変え、打ち合せを必須のものとししました。登山計画書の内容をメンバーが知らず、待ち姿勢になって予定した行動が取れずに下山が遅れた、其々が善かれと思った行動で更に収集がつかなくなったという事例もありました。これらはいずれもリーダーがきちっとした役割を果たさず、メンバーもリーダー任せにしたことを後に反省しました。

さて本題に移ります。皆さんの準備や点検に落ち度や不注意があり事故を起こした場合にだれがその責任を負うのかという問題です。何度か県連盟の考え方や過去の実例を報告しましたが改めて会議のテーマとしました。どの山行でも計画書が会に提出され受理、承認された後は会には山行管理者としての責任があります。登山の目的とメンバーの経験、体力、技術、知識などが備わっており日程も適切だと判断されたと思われるからです。現実はこちらとは違っています。それ故に役員は事故になったらどうしようという不安を拭いきれないでいます。

遭難事故は一般に事故者の過失があり、これにリーダーの判断と決定のミスが重なって起きます。しか

し、私が関わった事故の原因はリーダーと主催者の過失によるものが殆どでした。

例えば天候が悪化するなかを漫然と登山を続けた結果、事故になったという事例は無数にあります。これは通常、リーダーの天候の判断ミスと行動の誤りによるものです。このときは天候判断や緊急時の回避の知識や技術がない者がリーダーとなっているのを知っていて放置した結果が事故の原因のひとつと評価されれば、山行管理者も注意義務違反を問われるでしょう。計画書の受理後に適切な山行管理と指導がなされたかどうかの問題です。事故について過失責任の中身と範囲を希望的観測や都合のいい理屈で身構えるのではなく冷静に考えましょう。

保険の加入は経済的な負担を軽減するものです。事故を防止するために登山者がなすべきことは何かを考えましょう。

- (1)登山者としての自覚と責任 = プロとして扱われる = 刑事事件は業務上過失障害(致死)事件
二セコ春の滝裁判 ガイド2名は業務上過失致死罪で有罪判決を受けた
民事裁判はこの結果をもとにして損害賠償を決めた
業務とは有償無償を問わず、趣味であっても反復継続される行為であれば業務とみなす
私たちは登山をする専門家とみなされる(NHKの取材でも私を登山のプロと扱った)
- (2)社会的な常識 = 公序良俗 = 善管義務 = 社会的な習慣などがものごとを判断する基準
先に損害賠償権を予め放棄するのもこれにあたる。登山者の勝手な基準や主張は法廷で認められない「山での事故は本人のみに責任がある。私は一流だから間違いはない」など
- (3)過失とは 危険の認識がある、得られる これを回避する義務がある
とを怠ったとき過失がある。加害者、被害者双方に過失がある時はその割合に応ずる
- (4)登山の場合には過失による死亡として扱われ、逸出利益や慰謝料、葬儀にかかった費用などを弁償する(損害賠償は故意、過失による) 20代の場合死亡1億円
- (5)山岳会ではなぜ登山計画書の提出を求めるのか = 事故防止と安全教育の実現
会員が山岳会に所属、権利行使をする時に提出を義務づけている(山行規定) 山行規定がなくとも山岳会としての社会的使命として評価される。提出された計画内容が適正なものかどうかを判断して承認を与える = 山行管理と指導は会の役割(責任)となる
- (6)リーダーとメンバーの責任は均一同等ではない
リーダーの責任は重い 判断決定を委ねるため、

リーダーは適正な行動を求められる

リーダーはメンバーの安全を確保すること 登山による教育的配慮をすること

リーダーは緊急時に危険を回避、救助の責任を負う メンバーの責任より重い

(7) 最近の法廷では被告は事故の責任を問わないとする危険引受の考え方を力説しない

危険を相互に認識しているため、負傷してもそれぞれに事前に了解しているから損害の請求はなし得ないとする(契約関係と主張される)考え方がある

しかし、経験力量が異なる場合には当然に注意義務の範囲もことなり責任の割合も違う

横浜地裁 モミソ岩での障害による損害賠償請求事件では被告(指導者)の責任を認める

(8) 遺族の損害賠償金は亡くなった者の意志に拘束されない

遺族の固有の権利の侵害は許されない 公序良俗違反

保険の加入は登山者の義務とする 会員でない場合にも備えをする

(9) 個人の責任とは 体調の管理 トレーニング 装備の点検と訓練 役割分担の遂行など

目的に応じた教育活動への参加 登山者としての自立(意識と姿勢)

役割分担の遂行とは 例えばガスコンロの点検 予備 ガスの容量 使用の目的

例えば夏の時期の水分補給のため水筒(量)の把握 脱水症対策を取らずに危険を招いた事例はある = 脳梗塞、脳溢血

事務局長会議に集まった人たちに「あなたは自分のことを登山のプロだと思いますか」という質問に全員が「アマチュアだ」と回答しました。その根拠は登山を職業としていないから、報酬を得ていないというものでした。この考え方から過失があったとしても自分はアマチュア故、責任は軽くなると期待を持っていたのかも知れません。前述のとおり、私たちは登山のプロ=専門家とみなされます。アマチュアとは「年、2.3回程度の山登りをする人」と定義されるからです。誤解のないように。自らが学習と訓練によりできることをきちっと行なうことです。事前に天候を調べなかった。コースの下調べをしなかった。体調管理や装備の点検をしなかった。メンバーと打ち合せをしなかった等いずれも登山者としてなすべきことを怠ったとみなされます。登山に内在する危険、事故はいつでも、だれにでも起きるときは起きるのです。そのために防御の知識と技術を会、団体はきちっと学ぶ機会を作り、会員に呼び掛けましょう。仲間を大切に、私たちが支えている人たちの願いと期待を裏切ることのないように心

したいと思います。参加者に意見や質問はと聞いたところ、(そんなに責任が重いのなら)「うちは会を解散しなくては…」との不安な声がありました。私が参加をした集まりで、登山は人の命を奪う危険があることを一般的には理解しても、まさか自分には会には起きないことだと思いついて入っている人たちはたくさんいました。事故が起きることはだれも望んでいませんが、起きたらどうするかでは間に合いません。起きないように努力(=学習と訓練、点検と指導)と万一の場合の備えを欠いてはなりません。現場にあっては被害を最小にする、後遺症を残さないためには応急処置と適切な搬送方法を学ぶ、緊急時には通信手段も欠かせません。仲間との連携や協力も必要です。ぜひ、会とリーダーの過失責任だけを問題とするのではなく、日々の学習と訓練に取り組み安全登山を実現しましょう。

登山を安全に楽しく リーダー心得及び参加者心得

2010年度神奈川県連盟

リーダーは自らの経験と知識をもって登山の内容を点検するなかで問題となる事柄を見付けることは十分に可能です。またメンバーが事前には行動開始前に確認をしていれば事故やトラブルが回避できたと思われる事例はいくつもあります。ここには例示的で総てではありませんが、皆さんがひとつひとつ確かめ安全登山の実現に向けて努力し、楽しい時間を仲間と共有できるように出発から家に着くまでお互いに努力しましょう。

登山の目的、実施の方法をリーダーは理解して、参加者のレベルに合わせて説明しましょう。分かっているものとして省略しないで、メンバーに危険に対する心構えを持たせましょう。できること、できないことをお互いに理解しましょう。お任せという気持ちにならないように各自責任を持てるようにしましょう。

計画の内容のうち

(1) 本人が行なうべきことは体調の管理、日程の確保、持ち物の点検、適切なトレーニング、緊急時の連絡先を家族に明らかにするなど登山を行なう者の基本の事柄をしっかりと実行しましょう。

(2) リーダーないしは経験者が行なうことは、日程の確認、共同装備の点検、通信手段の確保、コースの選択と調査、緊急時の対策、メンバーの体調の確認、危険箇所の確認と対策、メンバーに対する安全指導と教育は登山者としての能力を高めることとなります。リーダーの役割と責任を自覚しましょう。

(1) 行動開始前に再度、登山目的、日程、方法などメンバーに熟知させましょう。

メンバーの行動、休憩時の様子を見てリーダーは

常にメンバーの点検と確認を怠らないようにしましょう。危険の予兆を見逃さない。

(2)計画内容に不備ないしは問題があると判断した場合に山行管理者はリーダーにその旨を通知しましょう。協議の後、修正、改善がなされたら計画の承認をしましょう。

各自持ち物が適切かどうか、確認しましょう。忘れ物や不要なものがないか点検しましょう。リーダーは基本的な物を忘れた場合には変更、中止を判断しましょう。

リーダーは必要ならメンバーの体調に関して、前日、ないしは直前の様子を聞き取り、事前に行動予定を再点検しましょう。

行動を開始してから予定どおり進まない場合、コースの変更、登山の中止など早めの決定をし、メンバーが時間遅れ、ピバークなどの事態に追い込まれないようにしましょう。

事故が発生した場合、メンバーの安全を優先し、メンバーにできないことを望んだり強いたりしてはいけません。不安のため再度の事故やトラブルを注意しましょう。

通信手段が生死を分ける場合があります。携帯電話の電源は切って所持、必要な時に電源を入れます。無線免許を持つものは無線機を所持し、電源、濡れ、落下に注意しましょう。普段から通信の要領を練習しましょう。

負傷者が出た場合、極力自分たちでできる最善を尽くしましょう。ヘリを呼んでもすぐには来ないため応急処置や短距離の搬送を訓練しておきましょう。最小限の用具を持参しましょう。何を留意するかは経験者から学びましょう。

病院で手当てが必要な場合には速やかにその手筈を取りましょう。

リーダーは現地で緊急の対応を済ませたら、速やかに留守本部に連絡をし、必要な要請、または指示を仰ぎましょう。

山行管理者は速やかに登山計画書の内容を点検し、会員に緊急時の場合の連絡と行動を指示しましょう。バックアップの体制を取りましょう。

会が単独で問題の解決が出来ない場合、速やかに連盟に連絡をしましょう。

下山したら直ぐに留守本部または会員に連絡しましょう。

忘れると事故発生かと会員が心配をします。計画書の提出先でも心配をします。

現地で助けてもらったり、協力を得た場合にはその場でのお礼の言葉と後日のあいさつの為、氏名、連絡先を聞き取りましょう。警察でも確認をされます。

メンバーの心得

万が一けがをしたり、具合が悪くなったら直ぐにリーダーに申し出ましょう。

忘れ物をしたり、途中で物をなくしたりして不都合を生じた時も申し出ましょう。

登山ではパーティを組んだときはお互いに仲間を思いやりましょう。

自分一人で善かれと思う行動は止めましょう。思い込みやできるはずというのは間違いを生みます。冷静に。

「先について、後で追い付くから」はトラブルにつながります。

パーティを分散して良い結果はまず生まれません。

リーダーが出発時間を指定したら、これを守りましょう。

日程や目標の山にふさわしいザック、持ち物を用意しましょう。

不必要な食物や衣類はお互いに点検をして最小限で登山に臨みましょう。

共同装備や用具は事前に点検して使えるように練習しておきましょう。

例えばツェルトなどは持っていても使えない人がいます。

体力と経験などから適切な時間、余裕を持った行動計画を立てましょう。

天候変化やメンバーの不調により遅れることがあります。予備の日程を考えて計画しましょう。

緊張する場所以外でよくトラブルが発生します。精神的な不安を感じたらリーダーに申し出ましょう。仲間の不安を解消するようにやさしい気持ちを持ちましょう。

怪我をしたら直ぐにリーダーに申し出ましょう。現場での応急処置など経験者に任せましょう。打ち身や打撲は思わぬ障害をひき起します。

くたびれてしまったときは休憩を取りましょう。無理してもいいことはありません。

リーダーは全体のリズムや行動を終始気に掛けましょう。

下山したら登山の目標や行動などすぐにまとめて皆のものにしておきましょう。

必要なことは忘れないうちにメモをしておきましょう。

追加事項・気付いたことがあれば書き足しましょう。



神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告と予定

川崎勤労者山岳会

報告：小池 秀子 計41名（男26 女15）平均 歳

5/23 小川山（2）	6/12-13 甲府幕岩(3+1)	6/19-20 甲府幕岩（2）
5/29 奥高尾（1）	6/12-13 御坂三ツ峠(3)	6/19-20 谷川岳（3）
6/5-6 小川山～阿弥陀岳南稜(1+7)	6/13 奥多摩・本仁田山（7）	6/19-20 雲取山(2+2)
6/6 御坂三ツ峠（3）	6/13 奥高尾（1）	6/20 奥多摩・高水三山（5）
6/6 ハツ岳（2）	6/14 塔の岳（1+1）	

川崎ハイキングクラブ

報告：川上勝夫 計102名（男52 女50）平均62歳

5/16 笹子雁ヶ腹摺山/中央線沿線(9)	6/6 能岳・八重山/上野原(15)	ス
5/16 善波峠・高取山/丹沢(4)	6/6 鷹取山/逗子(4)	7/24-27 大日岳/北アルプス
5/16 鷹取山/逗子(3)	6/12 日の出山/奥多摩(3)	7/26-30 飯豊連邦/山形・福島
5/18-19 縞枯山～東天狗岳/ハケ岳(4)	6/13 三窪高原～丸川峠/塩山(8)	7/31-8/3 大日岳～奥大日岳/北アルプス
5/23 国立昭和記念公園/立川(4)	6/13 二王子山/飯豊山(30)	7/31-8/8 羊蹄山・利尻・幌尻
5/22-24 庚申山-(皇海山)/赤城(7)	予定	8/14-17 乗鞍岳
5/29-30 妙義山/群馬(4)	7/2-4 蔵王山/東北	8/20-21 富士山
6/5-6 上州武尊山/群馬(7)	7/4 城ヶ島/三浦半島	8/20-21 大洞山
	7/11 丸山/奥武蔵	
	7/17-20 光岳～茶臼岳/南アルプ	

川崎柴笛クラブ

報告：砂原浩二 計32名（男19 女13）平均48歳

6/5 鹿島槍ヶ岳(3)	6/12 三ツ峠RCT(7)	6/26 大同心RC(2)	助訓練(4)
6/5 赤岩尾根(4)	6/12 大岳-御嶽山(1)	6/26 北横岳(1+1)	7/3 志賀高原トレラン(1+1)
6/6 愛鷹山(1)	6/12 黒伏山RC(2)	6/26 雲取山トレラン(1)	7/3-4 唐松沢・小雲取谷(8)
6/5-6 大谷原～三ルンゼ末端(13+1)	6/13 甲府幕岩(2+1)	6/26 マスキ嵐沢(1+1)	7/3-4 富士山(1)
6/5-6 三ツ峠RCT(1+7)	6/13 塔ノ岳無線講習(6+1)	6/26 湯河原幕岩(1+6)	7/3-5 厚寒別岳(1)
6/6 富士箱根トレラン(2+1)	6/13 檜洞丸(1)	6/26-27 富士山(1+1)	7/4 塔ノ岳(1)
6/6 石老山(1+1)	6/17 湯河原幕岩(1)	6/26-28 北岳(2+1)	7/4 山寺RCT(1)
6/10 川海苔山(1+1)	6/19-20 日向山(2+1)	6/27 浅間嶺トレラン(1)	
6/11 幕山(1)	6/25-26 梅池平(1+1)	6/27 三頭山トレラン(1+1)	
6/12 大菩薩峠(1+1)	6/25-27 唐沢岳幕岩RC(2)	6/27 戸沢(1+2)	
	6/26 塔ノ岳トレラン(1)	7/3-4 モミソ岩・戸沢救	

アルパインクラブ横浜

報告＝岸 直哉 計38名（男23：女15）平均 歳

6/2 湯河原幕岩(1+1)	6/6 塔が岳(2)	6/18 塔の岳(1)	6/26-27 仙丈ヶ岳～塩見岳(トランスジャパン予選会)(1)
6/2 御岳(ポルダール)(1+1)	6/6 忍野八海(3)	6/18 水無川本谷(1)	6/26-27 聖人岩(2+1)
6/4 奥武蔵・北川(1+1)	6/6 宝永山(3)	6/19 仙丈ヶ岳(3)	6/26-27 甲斐駒ヶ岳・黒戸尾根(2)
6/4-6 屋久島・宮之浦岳(1+5)	6/11三ツ峠(2+1)	6/19 大菩薩・日川流域・曲り沢(3)	6/27 水無川戸沢左俣(2+1)
6/5 仙丈ヶ岳(1)	6/13 西丹沢・椿丸周辺(リーダー学校)(2+23)	6/20 湯河原幕岩(2)	
6/6 三ツ峠(3)	6/13 早戸川・原小屋沢(2)	6/20 玄倉川・小川谷廊下(3)	
6/6 塩見岳(1)			

横浜ハイキングクラブ

報告＝丸尾真知子 計58名（男24：女34）平均62歳

5/13 室内例会(45)	5/16 鷹取山(県3+8)	5/5 六国見山(2)	5/28 箱根/神山(4)	室山～加入道山(県11)
5/1 尾白川溪谷(12)	5/29 丹沢/水質検査(県5)	5/6 西丹沢/屏風岩山(2)	6/17 室内例会(42)	6/6 弘法山(5)
5/9 九鬼山(11)	5/30 丹沢クリーンニング山行(26)	5/8 弘法山下見(2)	6/1 檜洞丸(2)	6/6 大岳山(6)
5/16 塔ノ岳トレニング山行(26)	5/30 丹沢クリーンニング山行(以下個人山行)	5/8-9 濁沢・テト泊(1)	6/3-5 阿蘇山・九重山(5)	6/11 箱根丸岳(3)
5/23 檜洞丸(中止)	5/1 三ノ塔～塔ノ岳下見(3)	5/8-9 鳳凰三山・テト泊(2)	6/4-6 草津/野反湖(4)	6/12-13 西丹沢・椿丸周辺(県26)
5/7-9 佐渡島(県9+28)	5/1-2 畦が丸(7)	5/18 塔ノ岳(1)	6/4-6 御坂・三ツ峠(5)	6/13 鎌倉天園(7)
5/8-9 日和田山(県1+)	5/3 塔ノ岳(4)	5/22 檜洞丸(4)	6/5 鳴神山(3)	6/13 三本槍～旭岳～茶臼岳(1)
5/16 湯河原幕岩(県1+25)	5/4 表丹沢三廻部下見・塔ノ岳(6)	5/22-23 ハケ岳/赤岳テト泊(3)	6/5 檜洞丸(1)	6/13 明神ヶ岳～明星ヶ岳(2)
			6/5-6 檜洞丸～大	

6/15 西上州四ツ又山~鹿岳(5)	日向山(5) 6/25-26 西丹沢・小川谷廊下(9)	~二子山(2) 6/27熱海・岩戸山(11)	7/10-11 大菩薩峠~小金沢連嶺	田口)
6/20 湯の丸山-烏帽子岳(バス11)(21)	6/26 西丹沢・双ヶ嵐沢(9)	6/29-30 北岳(3)	7/16-17木曾駒ヶ岳~宝剣岳	7/28-8/1 白馬岳~雪倉岳~朝日岳
6/20 甲斐駒前衛・	6/26 奥武蔵武川岳	7/8 室内例会(38)	7/18 三ヶ峠山	7/31-8/1 岩手山(7月活動予定は会山行のみ)
		7/4 鎌倉お寺巡り	7/24-25 富士山(吉)	

横浜こぶしの会

報告=南雲哲男 計25名(男17人 女8人) 平均55歳

6/5-7 ハヶ岳縦走(3)	6/25-27 焼石岳(1)	7/10 乾徳山
6/12 檜洞丸(8)	6/26 沼津アルプス(4)	7/17-19 小川山 金峰山
6/20 葛葉川(中止)	7/3 新茅の沢	7/22-23 高ボッチ 鉢伏山

藤沢山の会

報告=中河原昭夫 計90名(男44:女46) 平均64歳

6/2 運営委員会	6/13-7/4 入叟エニア・リアン	頭星山(6)	カトレ
6/2-5 九州・高千穂峰(4)	6/15 山梨・甘利山、千頭星山(1)	6/27 実技沢登り・モリ沢(15)	7/13 機関誌印刷・発行
6/3-4 奥秩父・飛龍山(3)	6/17 富士周辺・鹿留山北尾根(3)	6/29 丹沢・大山ボッカ	7/13-21 カナディアン・ロッキー(30周年記念山行)(10)
6/5 道志・菜畑山(5)	6/17 広沢寺岩ト(2)	7/3 南関東・大楠山	7/14 室内例会
6/5 丹沢山(5)	6/20 山梨・甘利山、千頭星山(1)	7/3-4 北海道	7/21 座学:カミル,GPS
6/6 大山地獄沢尾根(4)	6/23 室内例会(講座:地図とマップ)(38)	7/6-14 スイスアルプス	7/24 中部・伊吹山(30周年記念山行)
6/9 室内例会(41)	6/26 山梨・甘利山、千頭星山(1)	7/7 運営委員会	7/25 丹沢・勤七沢
6/11-13 上越・守門岳、二王子山(5)		7/7 丹沢・大山ボッカ	7/28 室内例会(講座:観天望気)
6/12 奥武蔵・熊倉山(10)		7/10 南関東・衣張山、天園	
6/12 甲府・棚山(13)		7/11 丹沢・大倉尾根ボツ	
6/13 箱根・明神・明星(8)			

小田原ナーゲル山の会

報告=中島健一 計30名(男20:女10) 平均 歳

6/1 箱根・神山(2)	6/13 丹沢 読図山行(1)リーダ学校	6/25-26 一の倉沢 烏帽子南稜(2)	7/3-4 皇海山(2)	稲子岳南稜
6/5-6 八つ 赤岳(2)	6/18-19 一の倉沢 南稜(2)	6/25-26 前穂高岳 北尾根(2)	7/10 富士山(1)	7/31-8/1 前穂高岳 北尾根
6/5 矢倉岳(3)	6/19 毛無山(3)	6/27 マスキ嵐沢(4)	予定	
6/5-6 小川山・クライミング(3)	6/20 丹沢表尾根縦走(3)	7/2-3 伊吹山(6)	7/11 セドの沢右保・リーダ学校	7/14 例会
6/12 広沢寺・クライミング(1)リーダ学校	6/20 越前岳(3)	7/3-4 八つ・小同心クラック(3)	7/11-12 八つ・西岳	7/22 運営委員会
			7/17-18 三ヶ峠&	8/11 例会
				8/26 運営委員会

相模アルパインクラブ

報告:水村和也 計35名(男23:女12) 平均53歳

3/31 シンパヌ(1)	6/5 大山川(1)	6/6 沼津アルプス(2)	6/13 幕岩(5)	ヒマラヤ(1)
5/29 勤七の沢(1)	6/5 広沢寺(5)	6/12 大山南稜(1)	6/26 勤七沢(3)	6/30-7/16 カナダ スコーミッシュ(1)
5/29-30 富士山(1)	6/5 表六甲(1)	6/12-13 富士山(1)	予定	
6/2 幕岩(5)	6/6 阿弥陀岳 南稜(2)	6/12-13 西丹沢/椿丸周辺(5)	7/3-4 谷川岳~茂倉岳(1)	6/22-8/4 インドヒマラヤ・ザンスカル地方(1)
6/3 檜洞丸・塔ヶ岳(2)	6/5-6 麦草・赤岳(1)	6/12-13 西丹沢・ユウシン玄倉川流域-石小屋沢(2)	7/3-4 丹沢/モミソ岩・戸沢左保(3)	
6/4 檜洞丸(1)	6/5-6 女峰山~男体山(1)		6/26-7/14 インド	
6/5 小川山(1)				

みずなら山の会

報告:末吉悦子 計34名(男23 女11) 平均59歳

6/9 例会(24)	6/13 鷹取(3)	PS講習会(6)	6/24 塔ノ岳(3)	キュー訓練(12)
6/11-12 富士山(1+3)	6/15 塔ノ岳(1)	6/20 甲府幕岩(3)	6/26 マスキ嵐沢(9+1)	7/1 広沢寺
6/12 丹沢主稜(2)	6/17 広沢寺(4)	6/20 阿弥陀南稜(1+4)	6/27 鷹取山・レス	7/10 小川谷廊下
事故や怪我の報告	6月6日 谷川岳烏帽子南稜(捻挫)			7/14 例会

山ブキの会

報告:青柳 計7名(男:女7) 平均64歳

6/6 千頭星山(新婦人らくらく)	6/18-19 雲取山(中止)	7/8 高尾山	黄岳	7/31 高水三山
6/12-13 甲武信岳	7/3 高尾山、城山	7/9 高尾山	7/12-13 富士山麓	8/9-11 燕岳
		7/12-13 八ヶ岳 硫	7/23 夜叉神峠	8/21-23 鳥海山月山

県連のスケジュール

7月			8月			9月		
1	木		1	日		1	水	登山リーダー養成学校机上講習
2	金		2	月	常任理事会	2	木	
3	土	救助隊搬出訓練	3	火		3	金	
4	日	救助隊搬出訓練	4	水	登山リーダー養成学校机上講習	4	土	
5	月	常任理事会	5	木		5	日	
6	火		6	金		6	月	常任理事会
7	水	登山リーダー養成学校机上講習	7	土		7	火	救助隊運営会
8	木		8	日	HCリーダー学校実技講習	8	水	
9	金		9	月	連盟news印刷	9	木	
10	土		10	火	事務局長会議/連盟news発行	10	金	
11	日	登山リーダー養成学校実技講習	11	水		11	土	
12	月	連盟news印刷	12	木		12	日	定期理事会
13	火	事務局長会議/連盟news発行	13	金		13	月	連盟news印刷
14	水		14	土		14	火	事務局長会議/連盟news発行
15	木	HCリーダー学校机上講習 遭難対策会議	15	日		15	水	
16	金		16	月		16	木	
17	土		17	火		17	金	
18	日		18	水		18	土	
19	月		19	木	事務局部会	19	日	
20	火	事務局部会	20	金		20	月	
21	水		21	土	登山リーダー養成学校実技講習	21	火	
22	木		22	日	登山リーダー養成学校実技講習	22	水	
23	金		23	月		23	木	事務局部会
24	土		24	火		24	金	
25	日		25	水		25	土	
26	月	自然保護委員会	26	木		26	日	
27	火		27	金		27	月	自然保護委員会
28	水		28	土		28	火	
29	木		29	日		29	水	
30	金		30	月	自然保護委員会	30	木	
31	土		31	火	臨時理事会			

2010年度の全国的な規模の集会・会議予定

全国ハイキングリーダー学校	9月18～20日（東日本）
MFAインストラクター養成講座	秋
全国遭難対策担当者会議	10月2日～3日（東京・全国事務所）
野辺山・救急救護講習のお誘い	10月30日（土）～11月2日（火）3泊4日
第15回全国登山者自然保護集会	11月27日（土）～28日（日）東京都勤労者山岳連盟



長期連載 東京・奥多摩特集 奥多摩の岳
人と人々 奥多摩取材班 03
古道“中道往還”“右左口宿”の復興のため
塩澤良雄 20
保険業法改正案が衆議院審議へ 斉藤義孝 14
白山千振尾根～別山 花折 忍 22
草創期を語る 原水章行さん(前)石川友好 15
武庫川ダム 建設中止を勝ち取るまで
第2回 村上悦郎 18
トムラウシの事故から学ぶ
山本正嘉先生 に聞く 島村正博 13
第31回近畿ブロック搬出技術講習 井芹昌
二 24
山のスケッチ 松江ハイキングクラブ 08
連載 クイズ 地図読み迷人
村越真 宮内佐季子 09

野鳥との出会い ピンズイ
小枝琢三 福井壽彦 10
シグナル 空飛ぶ山岳医は定着するか
斉藤義孝 12
山で気になるカンキョーの話 菊地敏之 25
連載 碧い南の島だより 雨宮節 26
全国連盟の活動 31/専門委員会活動報告 32
ひびくひと 鶴飼一博さん 後藤隆徳 35
地元会員特選ミニガイド
福島・懸の森/桑原信一
島根・琴引山/長野 至 36
ブックエンド 『伊藤達夫 冬の黒部記録
集』他 大塚富章 他 38
会報えつらん室 藤田栄子 40
オススメ山道具 感覚的アナログ時計
笹原芳樹 42